

# 多動傾向児に対するダンス指導 ～運動調整力の側面から～

浦和大学 樋口恵理子

## I 緒言

多くの子どもたちは、3歳頃から小学生低学年にかけて落ちつきの無さが目立ち、10歳前後から次第に落ちつくものである。従って、量的な問題を無視すれば、普通の子どもにも落ちつきの無い行動は認められる (Rosemare)。

ここで取り挙げる多動が観察される子どもたちは、知的障害や自閉的な症状も無いのに、注意集中能力に劣り、じっとしていることが少なく、周囲の者が要求しない時に動き回ったり、また、その行動の量が多すぎたりする子どもたちである。このような問題行動を起こす子どもたちは ADHD (Attention Deficit Hyperactivity Disorder = 注意欠陥/多動性障害) と言われている。

本研究は、多動が観察される子どもに対し、動きを操作する運動調整力の側面から身体特性を明らかにし、保育や生活におけるダンス指導の場で、こうした子どもたちにどのように対応していけば良いのか、その基礎資料を得ようとするものである。

## II 研究方法

1) 対象児：幼稚園の5歳児 (男児, 女児), 計200名を観察対象とした。この中から、多動傾向がみられる22名を抽出し (多動傾向群 = A群)、対照群にはA群を除く園児の中から幼児50名 (B群) を両群間の月齢差がみられないよう選んだ。

2) 多動傾向のみられる子どもの評価法：保育場面や運動場面での基本的動作を通じ、全体的な動きの中で多動傾向のみられる子どもを観察評価し、これと合わせて1980年版アメリカ精神医学協会によるADD調査票 (Attention Deficit Disorders) を用い多動行動を評価した。

3) 運動調整力の測定項目：開眼片足立ち、閉眼片足立ち、直線つき足歩行、平均台歩行、ジグザグ走、とび越しくぐりの6項目を実施した。

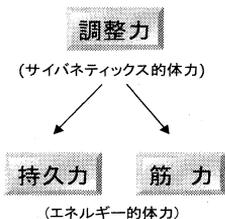


図1. 運動調整力の概念

図1 運動調整力の概念と構成因子

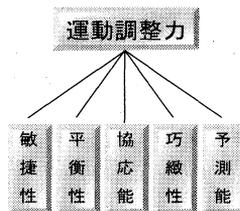


図2. 運動調整力の構成因子

表1 多動傾向児 (A群) の運動調整力 ※ [平均値]

項目 群別	開眼片 足立ち (sec)	閉眼片 足立ち (sec)	直線つき足 歩行 (m)	平均台 歩行 (sec)	ジグザグ 走 (sec)	とび越し くぐり (回)
A群※	72.9	11.0↓	2.6↓	14.5↓	20.9↓	18.5↓
B群※	98.6	17.5	3.8	9.3	16.1	25.9
有意差	n.s	P<0.05	P<0.01	P<0.01	P<0.01	P<0.01

(↓): B群に対して機能低下を示す

## III 結果と考察

Scammon は出世以後20歳にいたるまでの臓器別発育過程の中で、神経系統の発育は、出世以後著しく増大し、5～6歳頃には成人の80%以上に達し、12～13歳頃になると、ほぼ成人の値にまで達することを示した。本研究では5歳児を対象としており、同一年齢であるにも関わらず、運動調整力それぞれの構成因子の多くに、A群とB群の間で有意差を認めており、これは、調整力の発達過程で両群に中枢神経系の機能に何らかの違いが生じたものと考えられる。そして、幼児期に、さまざまな神経・筋の協応能力を高めるような多様な運動が成されることにより、大脳皮質において運動のための回路が形成される。ところが、多動傾向の見られる子供は、注意集中能力の欠落により、運動のための回路形成が未発達で、神経と筋の調節に遅れを生じさせるため、運動調整力の多くの項目においても一般の子供と比べ劣った結果を示したものと推測される。

以上を踏まえると、多動傾向を認める子供たちは、一見、活動的でたくましく観察されるが、運動調整力の側面からみると、落ち着きがなく、自分の身体を操作する能力にも欠け、不器用で慌てた行動を招くことになる。そのため、多動児に対するダンス指導の場では、運動をイメージとして捉える予測能、巧みに身体を操作する巧緻性をはじめとする、運動調整力の協応作用を高めるような動きを丁寧学習させることが重要と思われる。

## IV 要約

今回、多動傾向が観察される子どもの身体的特徴を明らかにするため運動調整力の側面から検討したところ、

1) 多動傾向が観察される子どもは、そうでない子どもに対し、運動調整力の構成因子の多くに劣ることが認められた。

2) 多動傾向が見られる子どもに対して、ダンス指導の場では、じっくりと考えて行動するような、運動をイメージとして捉える動作環境を与え、不器用からくる運動調整力の低下者には、巧みに身体を操作する、バランス運動・リズム運動をも含めた基本的な運動を豊富に与えることが、身体発育や安全教育の立場から重要であることが示唆された。